



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2021年4月4日

№. 83

あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、
あの方は復活なされて、ここにはおられない。

マルコによる福音書 16章6節b



礼拝献花より

御言葉に生きる

あなたの御言葉は、わたしのものとなり わたしの心は喜び躍りました。

エレミヤ書 15章16節b

ルーター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『神の居場所』

牧師 佐藤和宏

マルコ16章1節〜8節

苦難の中にあるとき、人は「神はおられない」と思ってしまうことがあります。人の常識を高く超えた御心に、私たちは時に戸惑い、神の存在を見誤ってしまいます。「神がおられる」ということは、すなわち信じる者を守ることにあらずだから、決して困難に遭わせることはないと考えてしまうのです。しかし、パウロは「(神は) 試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えてくださる(コリント一10章13節)」と言っているのです。それは、決して逃げ道が備えられている、こうして試練に遭わなくなるということではないのです。試練に直面し、どうすることもできない現実の中で、それでもその嘆く私と共に、主がいてくださる。これが「試練と共に、逃れる道を用意してくださる」と言われていることなのです。

第二の朗読でお読みいただいた、

コリントの信徒への手紙一15章に次のようにありました。「聖書略」私たちは人が救われるためには、その人の信仰が必要であると考えます。ところが、パウロは「この福音によって救われます」と言っているのです。あなたがどれほど信じているかどうかということではなく、福音が救いをもたらす唯一の力なのです。この福音とは、私たちの主イエス・キリスト、この方です。この方が、神の子であるにもかかわらず、私たちの間に同じ人間として来てくださったこと、十字架の死を遂げられることによって、私たちの罪の赦しを実現されたこと、そして復活し、私たちに新しい命の道を開かれたこと。これらが主イエスによって成し遂げられた恵みの御業であり、福音なのです。この福音によって、私たちは救われるのです。

さて、定年教師の賀来周一先生がかつて講演会で、ドイツの神学者ドロテー・ゼレの著書を紹介されていた出来事に触れていたことを思い出します。「第二次世界大戦時代のユダヤ人強制収容所の中で、ある出来事が起こりました。過酷な状況に

耐えきれず、脱走を計った子どもたちがいました。二度とことを起こさないように見せしめのために、収容所の中の子ども全員を集めて一列に並ばせ、5番目ごとに銃殺したのです。」ゼレは、この出来事を紹介するにあたって、こんなことを言っています。「このような時、愛なる神、全能なる神はどこにもおられない。もし、神が愛であり、全能であるなら、すぐにやってきて5番目ごとに並んでいただけで銃殺される子どもを助けに来てくれるはずだ。しかし、そのような神はどこにもいない。もし神がいるとすれば、銃殺される子どもと一緒に殺される神がおられるだけだ。そういう神は共に苦しむ神であり、それが十字架のキリストにほかならない。」

私たちは苦難に直面するとき、「神はおられないのではないか」と問うことがあります。神がおられるなら、このような悲惨な目に遭わせることはなさらないという、これは言うならば、神への信頼がそのようにさせるのかも知れません。しかし、パウロが言っていたように、「神は真実な方です。あなたがたを耐えられない

ような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださる」のです。「逃れる道」とは逃げ道でも、試練に遭わなくなる隠された道があるということでもありません。「試練と共に」と与えられる、その逃れる道とは、試練の中にあつて苦しみ、悩む、そして「神はおられないのではないか」と疑う私たちと共におられる主イエス、この方なのです。この方が、私たちと共にいて、私たちの苦しみ、悩み、嘆き、疑い、それらを共に担ってくださいるので、これが、神にあたえられた「逃れる道」なのです。

このように考えてまいりますと、神の居場所は、人の正しさのうちに生じるのではなく、すべてうまくいっているところにあるのでもなく、かえって人の苦しみや悲しみ、嘆き、恐れ、そして疑い、これらのうちにあるのではないかと思うのです。ですから、私たちは復活の主イエス・キリストに出会って、困難に直面するそのときこそ、「神は私と共におられる」と確信して、安心して生き始めることができるのです。(主の復活)

御言葉に生きる 7

私の愛唱聖句

○谷○子

「大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」

コリントの信徒への手紙二

12章9節

イースターを迎えるこの季節になると、自然界の見事さに毎年感動します。AIが人間の感情さえ読み取るうとしているこの時代に、日照時間によって木々が芽吹き、花をつけ、地面から草花が顔を出してきます。人間の力では到底不可能な仕事です。万物を創造された主の存在を深く覚えるのです。私にとつての御言葉ですが、右の「大いに喜んで…」です。

病氣の後遺症に苦しめられ、絶望さえしております。命にかかわることではないのに、甘ちゃんですった私には、今考えたら情けない事でした。外的な不自由さ（肩半分の麻痺）もあります。それ以上にまわりの人たちのどんな励ましも、慰めも受け入れられず、内なる自分に嫌

気が差していました。そんな中、あるお説教で「あるがまま、そのままで良しとされる、主イエスの十字架によって赦された」と。原罪については考えていたつもりでしたが、その時ストーンと心に響き、心が解放されました。あれから数十年です。新しくされた筈の私なのに、今日は雑事にかまけるマルタ。ある時は保身のために「知らない」と言うペト

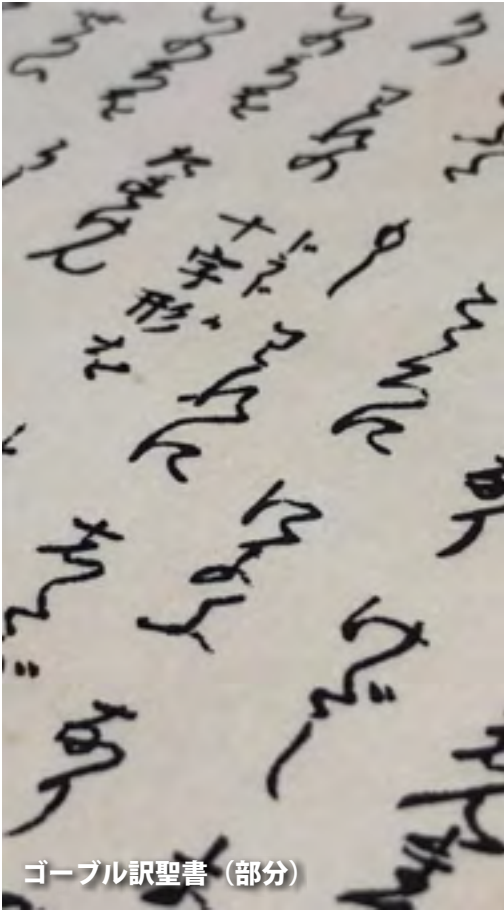
口。時には正義をふりまわしてファリサイ風と……。週一度の礼拝でそんな私は聖霊をいただき、浄められ、悔い改める。そしてまた、それを忘れての一週間を過ごしてしまいます。しかし、立ち帰る場所がある安心感に満たされて、神様に深く感謝する私になりました。
あの私の小さな苦しみは、恵みだったのです！

教会の二つの額縁②

最後にここで使用している仮名文字草書体について少し触れます。これは「変体仮名」、「異体仮名」といわれるものです。もともとは「万葉

仮名」の漢字から出発し、十世紀ごろ平仮名となりました。そして江戸時代ごろに使用頻度の高い平仮名がいわゆる「江戸仮名」となりまし

山〇〇司



ゴシック訳聖書（部分）

た。現代と違うことは一つの仮名に一つの字体が充てられていないことです。

この変体仮名は、江戸時代たとえば西鶴や馬琴などの刊本（浮世草紙、黄草紙）、かわら版（本来関東ではよみうりという）はもちろん、寺子屋（関東では筆学所）の教科書の『百姓往来』や『商売往来』などにも普通に使用されています。

「往来物」で当時の子供たちは仮名書きのことや基本的な漢字や必要最低限の専門用語を習得します。この変体仮名の使用は明治維新後も続きました。例えば夏目漱石の自筆原稿のいくつかはこの変体仮名が使用されています。また明治40年頃の同志社の学生が作っていた回覧雑誌『落葉』第二号にこの変体仮名が使用されています。（『百年前の日本語』今井真二著 岩波新書より）

明治政府は明治33（1900）年の文部省小学校令施行規則により、仮名の統一を図ります。改正前までは仮名は複数の字体があったのがあたり前でした。例として挙げますと、「あ」は阿蘇山の「阿」や安倍川の「安」、「か」は加藤さんの「加」や

可能の「可」が使われます。「き」は幾何学の「幾」や起床の「起」や支障の「支」がよく使われます。どうも明治政府のお考えでは、子供たち文字習得より、西洋の知識の習得に時間を割くようにとの考えでしょうか。

これにより仮名文字の習得はとも楽になりました。一方で現代の日本人は150年位前の刊本や古文書の類の判読がとて難しくなりました。残念です。(完)

参考文献
*『横浜開港と宣教師たち』(横浜プロテスタント史研究会著 有隣新書2002年9月30日発行)

*茂 義樹論文「川島第二郎著『シヨナサン・ゴープル研究』

*『百年前の日本語』(今井真二著 岩波新書 2012年9月20日発行)

*追加 仮名草書体の例

「あ」安 あ
「い」以 い
「か」加 か
「き」幾 幾
「起」起 起
「支」支 支

教会の動向



3月の教会は、先月号でご報告しましたが、1日(月)、月報委員会を一部リモートにて開催しました。3日には聖研がありました。

7日は、四旬節第3主日の礼拝があり、礼拝後、定例役員会が開かれました。諸委員を確認すると共に、宣教委員会に「コロナ禍にあつて、礼拝のあり方について」諮問することにしました。また、教区による春

季墓前礼拝が中止となったことを受け、藤が丘教会独自の墓前礼拝を5月16日(日)13時半より執り行うことにしました。その際、西原光彩さんの納骨をいたします。4月より月一回の予定で、「教会はキリストの体」(宣教百年記念事業室)をテキストとして、学びの時間を持つことになりました。14日の礼拝には、○谷○葉さんと婚約者の中○生牧師がお越しでした。午後、お二人の婚約式をいたしました。16日に印刷物の発送作業をいたしました。17日に

今月の受洗記念日の皆さん

- 1日 ○池○美子姉 6日 ○野○江姉
- 瀬○恵姉 7日 プラ○花○姉
- 8日 吉○人兄 10日 ○田○子姉
- 小○子姉 11日 ○野○治先生、
- 林○実姉、山○司兄、○井○姉、
- 林○和兄 12日 ○野○子姉、○野○兄 14日 ○田○兄
- 田○子姉、○山○姉、○木○子姉、○藤○真○姉
- 15日 ○野○智○子姉、上○秀兄、○橋○葉姉
- 20日 ○元○ゆり○姉 21日 ○井○子姉
- 22日 ○山○み姉 23日 ○井○姉



おめでとうございます。

「あなたの御言葉は、わたしのものとなり
わたしの心は喜び躍りました。」エレミヤ書15章16節
福音が教会のウェブサイト <https://www.pfc-fujigaoka.org/>
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日朝7時から10時頃)

教会ツイートから

「十字架の言葉は、減っていく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。」コリントの信徒への手紙一 1章18節
キリストの十字架は、弟子たちの目にも敗北に見え、敵対者たちには、愚かなものと映りました。しかしその十字架は神の力となって、罪の赦しを実現したのです。

聖研がありました。21日の礼拝後宣教委員会が開かれました。22日に、佐藤牧師は信徒訪問をいたしました。28日の礼拝は主の受難で、教会暦は受難週に入りました。29日、○野さんご家族の召天記念の祈りをいたしました。(佐藤)

牧師室より

イースターの喜びを申し上げます。困難の中にあられますが、主の復活に感謝し、新しくされた者として、日々、すべての方々のために祈ってまいります。(佐藤)